

第5回 総合計画審議会 会議録

召集年月日	平成27年12月18日(金)			
召集の場所	白馬村役場2階 201・202会議室			
開閉会の日時	開会	午後2時00分		
	閉会	午後3時40分		
出席者数	22名出席			
出席者	区分	役職名	氏名	出席
	教育委員会委員	白馬村教育委員会委員(会長)	伊藤 公一	○
	公共的団体の役職員	白馬村体育協会会長(副会長)	山岸 忠	○
	教育委員会委員	白馬村教育委員会委員	塩島 弘之	
	農業委員会委員	白馬村農業委員会会長	松沢 正猛	○
	公共的団体の役職員	白馬村民生児童委員	矢口 緑	○
	公共的団体の役職員	白馬商工会長	杉山 茂実	○
	公共的団体の役職員	区長会会長	山岸 弘明	○
	公共的団体の役職員	白馬村消防団団長	横山 義彦	○
	学識経験者	まちづくり白馬友の会会長	松澤 恵也	○
	学識経験者	神城婦人会会長	田中 みつる	○
	学識経験者	北城婦人会会長	眞島 宣子	○
	学識経験者	白馬村スキークラブ会長	太谷 陽一	○
	学識経験者	白馬村シニアクラブ会長	吉澤 豪俊	○
	学識経験者	大北農協白馬支所長	内川 武文	
	学識経験者	白馬村索道事業者協議会会長	駒谷 嘉宏	
	学識経験者	白馬村観光局長	北村 興二	
	学識経験者	白馬村ボランティア連絡協議会会長	太田 洋子	○
	学識経験者	特別養護老人ホーム白嶺所長	南沢 裕子	
	学識経験者	白馬村金融団幹事長野銀行白馬支店長	宮島 賢次	○
	学識経験者	白馬村建設業組合長	塩島 正	
	学識経験者	観光地経営計画委員	ケビン モラード	
	一般公募	公募委員	宮脇 哲也	○
	一般公募	公募委員	藤田 直子	○
	一般公募	公募委員	富山 正明	○
	一般公募	公募委員	高田 愛史	○
	株式会社 studio-L	小山 弘二	○	
事務局	白馬村役場総務課 課長	吉田 久夫	○	
事務局	白馬村役場総務課 課長補佐	松澤 孝行	○	
事務局	白馬村役場総務課 企画係長	太田 俊祉	○	

1. 開 会

<副会長>

開会を宣言する。

2. あいさつ

<会長>

今日が総合戦略最後の会議ということで、パブリックコメントとかそれぞれの立場で微調整をしていただくところもあれば微調整をしていただき、村長への答申ということにしたいと思う。それが終われば総合計画のいちばんのもとである総合計画の基本構想というようなことで説明をいただき、本格的な審議は来年になるかと思う。スケジュール的には厳しいものがあるので、忙しい中よろしくお願ひしたい。

3. 協議事項 (伊藤会長が進行を務める)

(1) 白馬村人口ビジョン及び白馬村総合戦略のパブリックコメントの結果について

<会長>

事務局に説明を求める。

<事務局>

パブリックコメントの結果についての説明を行う。

<会長>

パブリックコメントを受けたかたちで指摘をされたところを訂正したものがあるが、これについてはあまりに広範囲でやったのでわかりにくいと思うが、これでいいのか、この訂正でいいのか、違う訂正の方法があるのかということで、ご意見をいただきたい。

<委員>

番号16のところ、基本施策4。これについて青鬼の伝統的建造物についてはというところ。これは今回の中では入れていかないというふうな考え方と思うがそういうことか。

<事務局>

先ほど説明したが、観光地経営計画のほうにも住民の意向やルール設定が重要になるということで、青鬼地区については観光のホームページでも住民と観光客とのあいだでそういうものが何件かあり、今は特に積極的には紹介をしていないので、今回はこの部分は載せないという考えである。

<委員>

だいたい言おうとしていることは十分わかるが、ここ1年の問題ではなくて、少なくとも5年のうちには何かのルールの方向をしっかりとっていかないと、実際、青鬼の人の数も減ってきている。また村を挙げてその手伝いをするという気持ちがなければ住民の意見も変わらないと思う。しっかりとわきまえていかないと、これは国を挙げての重伝建になっているので、大北でも恵まれた重伝建のひとつであり、大きな白馬の目玉になっていくところであるので、今のうちからお互いに理解をする方向から進めていかないと手遅れになってしまうと思う。今までは西山的な観光が多かったが、これからは東山からの山を眺める、あるいは東山を歩くということは、昔から西山以上に東山には古道も多いようであるので、そんなことも今のうちからこの施策に入らないとまた5年遅れてしまうと心配をしている。そのへ

んはいかがか。

<事務局>

青鬼の関係については先ほど申し上げた状況だが、地域の方と特産品を何とか来年度からできないかということで、相談をしながら、村としては後ろ向きということではなく、地域とうまく連携していくものを模索中。確立をしていきたいという部分はあるが、最終的なところまで至ってはいないので、見直しの中で具体的に地域の方とコミュニケーション、観光客とのルールが確立できれば、先ほどのいくつか項目があったようにKPIの制定をしたいと考えている。現時点ではどうかたちでやっているのかというのは調整中ということであるので、今の時点では載っていないということで理解していただきたい。

<会長>

随時見直しをしながら、もし入れられるときが来たら入れる。

<委員>

総合戦略とは直接関係がないが、このコメントの記載した紙に観光地経営計画は指摘されたが、観光地経営計画というのはパブリックコメントを終了していいと思うが、これの扱いはどうなっているのか。できあがって、どこかの場所でお墨付きを与えたということか。そのお墨付きを与えたとしたら、できあがり村のホームページで紹介するのか。

<事務局>

ちょっと確認したい。それぞれの所管課に関係する部分があるので、総務課だけで書けない部分があるので、観光のほうにも現状を聞いた中での回答だったもので、内容的なものはお待ちいただきたい。

<委員>

里山整備等を入れたらどうかということを入れたが、里山整備というのはどういうことを具体的に考えて言っているのかということと、青鬼と直接出さなくても、歴史的、文化的な地域資源を活用したというかたちでそういったものを含めてはどうかと思うがいかがか。

<事務局>

こちらのほうで想定している里山整備の意味は、例えば里山道を新しく造る、枝の伐採、間伐等して観光客をおもてなしするにふさわしい環境をつくるというようなニュアンスでとらえております。

<委員>

歴史文化的な意味での地域資源ということであるのかどうか。そうすれば青鬼は含まれるのかという気はするが。

<事務局>

地域資源の中には当然そういったものがある。

<委員>

結局、具体的に青鬼は出さなくても、そういう中にこれは含まれて、青鬼を代表しているが、それ以外の歴史的な文化的な財産、文化財的なものも含めて整備をし、見てもらえるような環境をつくって観光のひとつの要素とすると理解してよろしいか。

<事務局>

先ほどの質問の観光地経営計画の発表の関係だが、担当課に確認したところ、パブリックコメントの結果と結果を反映した最終案についてはホームページのほうで公表をするということで準備中。遅くとも

年内には公表したい。

<会長>

ほかの項目については。

(意見なし)

<会長>なければ最終案として取りまとめるということにしたいがよろしいか。

(2) 総合計画の基本構想について

<会長>

事務局に説明を求める。

<事務局>

総合計画の基本構想について説明を行う。

<会長>

総合計画のざっくりとしたおおまかな枠組み、方向についての説明があり、事務局のほうでキーワード等が書いてあるが、付け加えることがあればお願いしたい。

<委員>

昔は里山みたいな所を活用しながら、その山の木や落ち葉は大事な財産で、焚き付けに使った。昔の周りの山の意識が薄れてしまっていて悪いなという感じを持っている。先ほどの青鬼の話も出たが、山岳はどうであれ、里山というものをもう少し意識したほうがいいのかかなと思ったので、聞き取りの中で山や川の部分は出てきていなかったかと感じた。特に東のほうの山の皆さんは高齢化で人がどんどん減っていて、家もボロボロになりつつあるし相当問題を抱えている気がする。どんなふうはどうって言うことが言えないのはなぜかと言うと、森林資源は安くて、半分放棄したような部分があるので、農業も水田や畑はもともとは山だったところがまた戻っている感じがする。もっと白馬というのは周りの里山とかかわりながら生きたというのが大切な意識を持つ人が多いようなら、そのへんを研究してもらえばと思う。

<studio-L>

インタビューで山の暮らしという意見を出した人もいた。今話があったように、3とか4番目のところにもしかしたらそういう言葉も入ってくるのかと思う。先ほど事務局が言ったように、将来像と言っているところがある。総合戦略のところはどちらかというとう人口が何人とか、現状維持なのか、ちょっと微増なのかという話に終始した部分があるが、今回の計画については村の将来像を語る部分なので、今言ったように里山の意識をさせるような言葉を入れたり、もしくはもっと暮らしの部分の医療と介護をもう少し入れてみるとか。どちらかという、インタビューは今回経営者の方が多くて、観光やグリーンシーズンをという話が多かったが、実際総合戦略のほうの修正資料の9ページにあるような人口ピラミッドを見ると、2040年ぐらいになると30代以降の人が100人を切っている。そのとき、総合計画のところは10年後なので、2040年近くの人口構成になったとき、白馬村でどういうふうに住らしていきたいですかというところを今のうちから住民と考えながら決めていく必要があると思う。それを踏まえて里山はこうしていこう、観光はどうこうしていこうという話を時間も無いが話し合っていくようなことを考えている。

<委員>

①のいちばん下のところに、地域の住民が主役となるということがありますが、それがキーワードと関連しているのか、していないのか。基本的なことで、それがいったい先ほど言った理念のところと関連しているのか。どういう意図でこれを書いたのか聞きたい。

<事務局>

これについては、理念のキーワードというわけではない。この理念に基づいて将来の白馬をつくっていく中で、手段のひとつとして地域の住民が主役となって地域をうんぬんというふうに考えているところもある。混乱させてしまい申し訳ない。本来であれば、施策大綱のいちばん最後のあたりにもっていけばよかったのだが、私の思いを入れさせていただいたので、直接キーワードというものではない。

<委員>

非常に大事だと思う。これと次の③の(7)というのはよくここまで書いてきたなと評価するところ。地域の住民が主役となるというが、行政というのは行政の役割、それからどういうものがどういうふうに関係しているか、非常にこれは両輪、議会と行政と言いますが、行政は情報量や企画力がすごいので、それを仕掛けづくりで住民へ投げるのではなく、行政としてはこうだという切り口も(7)と連動してお願いできればと考えている。行政の果たす役割というのは今後10年間で大きく、非常にウエイトを占める。すべてであっていいぐらいなことになるので、ぜひこの仕掛けづくりの中に行政と連動したものを考えてもらえればありがたい。

<事務局>

キーワードをイメージとして捉えてもらいたいのは、これまで何回か会議やキーパーソンインタビューやいろんなところから出てくる。最初のときに、第4次の総合計画の後期計画があれば、そちらの基本理念のところ、14から15ページにこれら出てきているキーワードを使いながら、基本理念としての作文をまとめていく。このキーワードがそのまま出てくるというのではなく、文章の中にキーワードを入れながら、この村の基本理念というものを文章化していく。当然、文章の中の表現で、主語がだれであるとか、形容詞が出てくるとか、次回皆さんにお諮りをして、ここはこういう言い方にしてほしいとか、そういうイメージとして捉えてほしい。キーワードをいくつか羅列して箇条書きということではなく、どういう思いをこの基本理念に入れ込むのかという捉え方をしていただきたい。単語だけでもキーワードとしてあれば事務局に出していただきたいと思う。

<委員>

studio-Lさんも言っていたが、キーワードの中に暮らしの部分が全く入っていないというのが、女性の立場からも気になる。総合戦略のところ、将来にわたって住み続けたい魅力あるまちづくりの中に、基本施策2、健康づくり支援があるが、ほかのものはあちこちに振り分けられて入っているが、そのところがどこにもないので入れてほしい。食ということで、各宿の方も食を大事にすると思うし、健康とも食は関係ある。特色ある白馬のおもてなしにもつながるし、これから国体があっても食はお客様を呼べるひとつのポイントにもなるのでどこかに入れてほしい。女性の活用というのが素案の中にあるが、具体的にはどのようなことか。

<事務局>

女性の活躍ということで入れたが、具体的にどういうことをやったほうがいいのかということはこれから決定していくことになる。いただいた意見の中では、女性が働ける環境をつくってほしいという意見もあった。子育ての部分で送迎の時間があるので働きに行けないという意見もあったので、そういった

ものをイメージしている。現在も婦人会活動については非常に厳しいということは承知している。人手不足ということが言われつつあるが、そういった部分の人手の足りないところに女性が普通に働ける、子どもを置いても働けるといったような漠然としたイメージで、社会参加の部分の施策をイメージしている。

<委員>

このキーワードを見てどこかピンとこないのがある。それは今言われた暮らし、里山とかいう部分ではないかと思う。外国人移住者や居住者、若者の移住者、定住だったりということは、結局白馬の産業が活性化すれば魅力のある土地なのでどんどん増えてくる。それに左右されることのない白馬の村民の人たちの暮らしがあり、その部分がこのキーワードの中にそれを関係づけるような部分がないから、なんとなく地域の住民が主役となって地域を活性化していくという、「住民が主役となって……」というの、だれのことを指しているのかというのがピンとこないという部分がある気がする。

<事務局>

こちらは事務局のほうで受けた印象を箇条書きにしたもので、これについてもどのような方法にするかご意見をいただきたい。

<studio-L>

補足させていただくと、2つあると思う。インタビューに関しては、先ほどお話したように、経営者の方が多く、その方の友達とか暮らしに関して何か話ができる人を1月ぐらいに機会をつくってまわる予定でいる。その中でキーワードに関するところをピックアップしてきたい。もちろんこの場でも意見をいただきたい。2つ目は将来像をどうするかということで、役場の役割や住民の人たちをどうするかというところが実際まだ行われていないので、意見交換する場をつくりながらどういうふうに村で過ごしていこうというところをやっていききたい。それを踏まえて整理したものをこちらへ持ってくるので、そこで基本理念の調整をするという流れになると思う。理想的な将来像を決めてから、4月以降、具体的に暮らしの部分でこういうことをやっていこうとか、先ほどの女性の活躍は具体的にどうなのかというところはそこから始まると思う。村の将来像があったうえで、それに対して女性の人たちはどういうふうにしていくとか、村としてどうやるのかとか、そういう進め方をしているので、具体的にどうするかということは答えにくい。そういう流れでやっていく。

<会長>

幅広い意見を集めた中から少しずついいものにしていくということなのでよろしく願いたい。今日は目標指数というところの10年後の目標人口、平成37年で8805人ということで、このへんを検討していただき今日決めていただきたいと思う。

<委員>

人口の数字なんて、今無理やりつくる必要はないと思う。現状からどのくらいの範囲に収めるかとか、どういうふうにしていくかという、下がらないように維持してくというぐらいの文言でいいような気がする。このあいだの人口の9000と決めたのも勝手に付けたような数字で、その数字なんて生きてくるのかということもあまり意味がない気がする。それよりも村として同じ9000でも中身をどうするかということのほうが大切ではないか。あえていちばん最初にまず目標値の数字決めましょうというのはおかしいんじゃないかと思うが。

<事務局>

数字について必要ないという意見があれば、それはそれをつくってくるが、10年後の目標ということで、ある程度の10年後に達成する理念があり、理念のもとで10年後のすがたを達成するかという、ある程度のすがたはつくっていききたいと思う。それについて数値ではなく文言でこういうふうにするということでもいいという話であれば、そういうかたちでつくることも可能だと思っている。

<会長>

その点についてはいかがか。大まかな目標値があったほうがいいのか、文言で表したほうがいいのかということだが。

<委員>

仮に文言でやった場合は、客観的なPDCAのときにどのようにチェックできるのか。

<事務局>

通常、総合計画を立てるときというのは、いちばんの柱となる指数というのが人口の推計値にならざるを得ないという部分がある。ただ審議会の中で決めづらいという部分があれば文言として、ただし行政の計画とすれば庁内で数値の決定はしたいというふうに思う。やはりそれをあいまいにしていいのかということが逆に言うに出てくるので、なかなか決めづらいということであれば、総合戦略のほうでも施策の展開によって期待値を含めたグラフは示しているので、それからあまりに乖離した数値としては出せないというふうに思っている。1年ずれている部分があるので、今現在とすればそういう決め方でなく進めていくということであれば、こちらはこちらの中で数値的なものは乖離しない程度で出したいと思う。もし皆さんのほうで決められないということであれば。

<委員>

端数のついているような数字をこの場で決めるなんていうことは危険ではないか。ここの冒頭のキーワードのいちばん上に、「生産年齢人口中心とした将来人口の維持」と書いてしまっている。大まかな方向としては維持ということで悪くはないと思うが、10年後の数値まで早急に出すなんていうのはやめたほうがいいのかと思う。維持しようと思うなら具体的な施策を積み上げていきこうなるというのならわかる。そうじゃなく、具体的な施策というのがまだ全然論議していない段階で、数値だけ先行してたてるというのはやり方として非常に危険であると思う。8805人という数字の根拠は何か。総合戦略で5年後9000でまあいいやと思ったのは、今年の11月1日の数値が8950ぐらいだったので、それと9000なら50しか違わないんだから、50をキープしていくというのはいいじゃないかということでもいいじゃないかということにしたんだが、10年後に8805という白馬村人口ビジョンと書いてあるが、どこにその資料があるのか。

<事務局>

人口ビジョンと書いたが、数字を計算するにあたり、今回白馬村の総合戦略で人口増を目指すという方向でいろんな施策の方針を決定して、その方針に基づいて10年後の人口数を計算したところが8805という数字であったので、こちらには参考資料ということを書いた。

<委員>

5年後に9000とどう擦り合うのか。

<事務局>

人口ビジョンの29ページに、人口の将来展望というものを書いたが、そちらに5年後については9000というかたちで目標数値をつくった。その後、どうしても人口実態は全体の人口が減少になってい

るので、どうしても減ってしまうのはやむを得ない。あくまでも人口を維持していくという施策の方向を決めていただき、そういった施策を展開していくうえで人口の減少を減らしていくという数値を計算し10年後にどうなるかという、こちらでシミュレーションできる計算式で10年後を計算したところが8805という数字が出たもので、5年後は9000。10年後、5年後については維持をしていきたいというふうに考えるが、どうしても減少幅があるということで、8805になってしまうという計算結果が出た。人口の将来展望の中の数字のひとつということで考えていただければと思う。

<委員>

それは納得できない。社人研の推計でも日本創成会議でも減ることになっている。それではまずいから人口増を目指すという総合戦略の謳い文句をしたわけで、計算式により減るといふなら、ここで人口問題なんて論じる必要がない。社人研や創成会議とかの予測のようにならないために、具体的にどういふことをやっていき議論をする。そうでないとどんどん減っていくということを前提としたらわれわれの議論は力が入らない。

<会長>

施策をしてなおかつこの数字ということ。自然に任せたらもっと少なくなるということ。

<事務局>

こちらのほうの将来展望の中で、あくまでも参考資料ということで、こちらのほうで私が白馬村人口ビジョンと入れてしまったので混乱をさせてしまい申し訳ない。たしかに戦略としては人口を減らさない、増加するというので施策を決定していただいたし、これからしていかなければならないと考えている。あくまでもこれは機械的な計算式の中でこういった数字になったということで、あくまでも参考資料だというふうに理解していただければありがたい。

<委員>

第4次総合計画のところの18ページに指標指数ということで謳われている。その27年度の目標が9000人となっている。この資料によると27年12月1日現在、登録者数8987人。差異はない。そのあたりをもう一度ここで人数を決めるとかではなくて、このあたり、非常に、ある意味ではこれだけ観光が大変だ、それからスキー客が3分の2に減ってしまったと言いながら、一応これは満たされているわけです。これは数字としては評価に値すると思う。これが7000ぐらいになっていけばこれは何だということになりますけど、一応、それが満たされていると。それをもう1回考えて、あと何年後先をどうするかという。どうしても決めろというなら、8800とかそういう数字になる。そうじゃなければもう一度こういう資料を見ながら考えてみればいいかなと思う。

<会長>

それは次回検討ということで案を出していくのでよろしく願いしたい。全体を通して意見があればお願いしたい。

(意見なし)

<事務局>

先ほどもいろいろ話の中で出てきたが、11月に5日間かけて studio-L が村内で活躍されている方にインタビューをしていただいた。結果についてはまとめていただいている。インタビューの中で受けた印象を発表していただきたい。

<studio-L>

先ほど意見の中で話したが、経営者の方が多かった。24名に話を聞いた。多かった意見は、今日の基本計画の基本構想資料2の裏側の真ん中の観光業、農業を中心とした産業の活性化というところの中のいろいろなこういうふうにしたらいという話が多かった。次に景観が素晴らしいから、これを産業に関連してもう少しアピールしたらいいんじゃないかという話もあった。今、キーマンと言われている方の友人だとか知り合いを、インタビューの最後にどなたか紹介いただけないかというところで、今度はもっとより暮らしに焦点をあてた話を聞いていきたいなと思っている。具体的には介護、医療の問題、子育ての方は3名ぐらい。逆に言うと高齢者の方、もしくは20代、30代の方、その方のご意見も不足している部分があるので補強していきたい。ここで書かれているような若者を中心とした移住・定住というところにかかってくるが、その方々の意見を踏まえてキーワードっていうのは充足していく必要がある。観光と農業というところにどうしても目がいってしまうが、一歩下がって暮らしの部分で今後白馬でどういうふうに住らしていきたいかというところを重点的に聞いていきたいと思う。

4. 閉 会

<副会長>

閉会を宣言した。